

農林漁業現地事例情報「農林水産分野におけるIT活用取組事例」

1. 基本項目

分類	省力・便利・売上・元気・安心					
取組名	コンピュータを使ったいちごの高設土耕栽培システム					
取組主体	(株)スバル建設					
取組主体の住所	北海道恵庭市柏木町568番地					
取組地域	北海道恵庭市					
補助事業	1	新一村一雇用おこし支援事業	年度	平成20年度～年度	交付主体	北海道庁
	2		年度	平成年度～年度	交付主体	
	3		年度	平成年度～年度	交付主体	

公表の可否	可	個人情報掲載の可否	一	外部からの問い合わせの可否	可
-------	---	-----------	---	---------------	---

2. 取組の概要

(1) IT導入の必要性、導入に至った経緯	<p>(株)スバル建設は主として建設業を営んでいるが、昨今の公共事業縮減と冬期間は工事が減少することから、雇用対策もかね新たな事業の展開を模索していた。</p> <p>そうした中、栃木県において日立コメック製のコンピュータを使った、いちご高設土耕栽培システムの情報を知り、収穫期間は冬期(12月～5月)ということもあり、いちご観光農園を新たな事業として取り組むこととした。</p>
(2) IT利用により期待される効果・目標	<p>(売上)</p> <p>昨季の入園者数は1,300人程度であったが、今季は3,000人を目指し経営を安定させる。</p> <p>(省力)</p> <p>本事例は発足時からITを導入しているため、過去との比較はできないが、管理に要する人間は一人でも可。</p> <p>(元気)</p> <p>建設関係の従業員も接客を体験することにより、他業務においても接遇態度によい変化がみられるようになった。</p>
(3) IT活用の概要	<p>(本システムの特徴)</p> <p>栽培品種は「とちおとめ」で本場、栃木より苗と培養土を移入している。ハウス内の温度等の環境も、栃木の気候と同じになるよう設定している。ハウス内に設置したセンサーとコンピュータにより、室温・日照等をモニターし、以下の作業が自動的に行われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天窓の開閉</li> <li>・光合成を促進させるための炭酸ガス発生器の稼働</li> <li>・ボイラーによる加温</li> <li>・照明灯の点滅</li> <li>・かん水・液肥管理</li> </ul> <p>【ITの導入初期経費】500万円 【ITの年間運営経費】年間10万円</p>
(4)	

I T利用者の範囲	生産者(団体) ・ 流通加工販売業者 ・ 消費者 ・ その他( )
-----------	-----------------------------------

### 3. 取組の効果

#### (1) 定量的効果

①	効果のあった点	人件費の抑制	
	効果の割合	導入直前との比較：50% (減少)	対前年との比較： % ( )
②	効果のあった点	粒の大型化	
	効果の割合	導入直前との比較：20% (増加)	対前年との比較： % ( )
③	効果のあった点	高糖度 (17度～20度)	
	効果の割合	導入直前との比較：20% (増加)	対前年との比較： % ( )

#### (2) 定性的効果

分類：安心	無農薬栽培により他産地のものとの差別化がはかれる。
分類：	

### 4. I Tに関する課題と今後の展開

導入したシステムに関する課題・問題点	システム自体に問題点は特に無いが、送水用パイプが熱に弱く、夏期に培養土の消毒等を行えば高温のため劣化が早まる。
I Tに関する今後の取組・展開方向	今後、いちご農園の経営が軌道に乗れば、施設の増棟を計画しているが、その際には同じシステムを採用することとなる。

### 5. 利用者、I T (システム) 構築業者の感想 (声)

<p>システムの操作については習熟すれば特に問題は無い。コンピュータが24時間、室温等の制御をするので、夜間や休日等、人間が見回り等をしなくてすむ点便利である。</p> <p>無農薬栽培で取り組んでいるが、これを可能としているのは、コンピュータによる管理が大きく貢献している。雑菌等からも隔離された安全ないちごを来園者に提供できる。</p>
--

### 6. 石破プランへの展開

石破プラン推進に向けての所見	<p>本取組は自社の雇用対策のみならず、地元の観光資源としての活用も視野に入れている。</p> <p>開園期間が12月から5月であることから、観光客の減少する冬場に向けて、地域の活性化にも寄与するものとする。</p>
----------------	--

### 7. 取組主体の概要

設立年次	平成46年
構成員	25人
経営規模	<p>経営耕地面積：</p> <p>所有施設：大型ハウス1棟 (5,940㎡)</p>
主な活動内容	特定建設業、運送業、いちご観光農園

農商工連携	有・無	無
連携先組織名	業種：商工業者・その他( )	
連携先組織名	業種：商工業者・その他( )	
連携先組織名	業種：商工業者・その他( )	

画像



ハウス内のいちご  
 通路は車いすも通れる幅があり、  
 車いすに乗ったまま、いちご摘み  
 が楽しめる。



液肥を管理する装置  
 溶液と栄養剤をコントロールし  
 て、いちごに適した栄養分を供給  
 している。

イメージ図

なし

【情報収集官署】 北海道農政事務所 札幌統計・情報センター

連絡先：011-863-6031

<本事例の収集時期：平成21年12月>